(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3557448号
(P3557448)
(45)発行日　平成16年8月25日(2004.8.25)　(24)登録日　平成16年5月28日(2004.5.28)

(51)Int.Cl.[7]　F I
A45D 2/24　A45D 2/24
A45D 4/10　A45D 4/10

請求項の数 3　(全 4 頁)

(21)出願番号　特願平7-520885
(86)(22)出願日　平成7年2月9日(1995.2.9)
(65)公表番号　特表平8-508921
(43)公表日　平成8年9月24日(1996.9.24)
(86)国際出願番号　PCT/CH1995/000031
(87)国際公開番号　WO1995/021553
(87)国際公開日　平成7年8月17日(1995.8.17)
審査請求日　平成13年7月4日(2001.7.4)
(31)優先権主張番号　419/94-6
(32)優先日　平成6年2月11日(1994.2.11)
(33)優先権主張国　スイス(CH)

(73)特許権者
ザーム　ユルゲン　エー
スイス国　アルニ　８９０５，バウムガルテン　２１
(72)発明者　ザーム　ユルゲン　エー
スイス国　アルニ　８９０５，バウムガルテン　２１

審査官　金丸　治之

(56)参考文献　特開平０５－０８４１１３（ＪＰ，Ａ）
実公平０６－０１０８８１（ＪＰ，Ｙ２）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)
A45D 2/24

(54)【発明の名称】ヘアカーラー

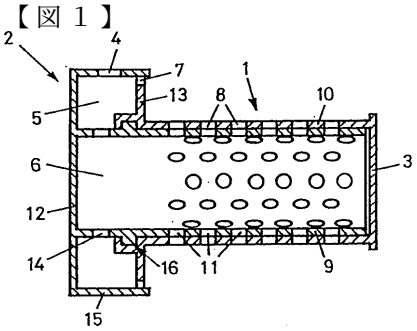
(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
そこに巻き付けられる毛髪の受け部としての空洞の円筒形部（１）を有し、空洞の円筒形部（１）の両端部は夫々フランジ部（２、３）になっており、その一方は空気流入口（４）を有する空洞体（２）として構成され、該空気流入口は空洞フランジ部（２）の内部空間（５）に、更に空洞の円筒形部（１）の内部空間（６）に温風を送るためのホースが取付けられるためのものであり、空洞フランジ部（２）は円筒形部（１）方向と、それに略平行な方向に向かう空気流出口（７）を含み、円筒形部（１）はその円周部に半径方向に向かう空気流出口（８）を含むヘアカーラーにおいて、円筒形部（１）は弁体（９）を有する回転弁として構成され、その開口位置では、円筒形部（１）の内部空間（６）と外気とを連通させ、閉鎖位置では内部空間（６）と外気との連通を塞ぎ、弁体（９）の両位置において、一方のフランジ部（２）の空気流出口（７）を開口状態に維持するようになっており、円筒形部（１）はその円周壁部に複数の空気通過口（８）を有する外部スリーブ（10）より成り、その内部に弁の弁体を形成する内部スリーブ（９）が回転可能に支持され、その円周壁部に少なくとも１つの空気通過口（11）を含むヘアカーラーにおいて、内部スリーブ（９）は、空洞体として構成された一方のフランジ部（２）の少なくとも１つの部分（12）に、それと共に回転するようにしっかりと連結され、ホースと連結されるようになっている流入口（４）はこのフランジ部（２）に配置され、外部スリーブ（10）はフランジ部（２）から遠い端部で円板状のフランジ部（３）に、それと共に回転するようにしっかりと連結されていることを特徴とするヘアカーラー。

【請求項２】
外部スリーブ（10）は円板状のフランジ部（３）から遠い端部で、円板（13）にそれと共に回転するようにしっかりと連結され、円板（13）はその円周端部に沿って凹部を有し、空洞フランジ部の空気流出口（７）を形成し、空洞フランジ部（２）は、それと共に回転するように内部スリーブ（９）にしっかりと連結され部分（12）と、更にそれと共に回転するように外部スリーブ（10）にしっかりと連結され部分（13）とを含み、２つの部分（12、13）は、夫々外部及び内部スリーブ（10）、（９）と共に互いに回転自在になっていることを特徴とする請求項1.に記載のヘアカーラー。
【請求項３】
内部スリーブ（９）はその円周壁部に多数の空気通過口（11）を含み、それは外部スリーブ（10）の空気通過口（８）の数と等しく、空気通過口（11）はその開口位置では空気通過口（８）に配列されることを特徴とする請求項1.に記載のヘアカーラー。
【発明の詳細な説明】
本発明は、そこに巻き付けられた毛髪の受け部としての空洞の円筒形部を有するヘアカーラーに関し、空洞の円筒形部の両端部は夫々フランジ部になっており、その一方は空気流入口を有する空洞体として構成され、空気流入口に、空洞フランジ部の内部空間に、更に空洞の円筒形部の内部空間に温風を送るためのホースが取付けられ、空洞フランジ部は円筒形部方向と、それに略平行な方向に向かう空気流出口を含み、円筒形部はその円周部に半径方向に向かう空気流出栗を含む。
パーマネントウェーブを形成するために、毛髪は初めに洗髪され、ヘアカーラーに巻き付けられ、永久的にウェーブされた毛髪を得るために、パーマネントウェーブ剤、その後中和剤で周知の方法によって処理される。
その後、毛髪は夫々カーラーからほどかれ、毛髪を乾かすために更に別のカーラーに巻き付けられ、前述のように乾かすために温風がそのカーラーを通って毛髪に送られる。
この繰り返される毛髪の巻き付け及びほどきは退屈で、時間を消費する行程であり、更に又、異なるように構成された二対のヘアカーラーがそのような行程に必要である。
ここで、本発明は改善法を提供することを意図する。本発明は、特許請求の範囲で特徴付けられるように、上記の問題を他のもので解決し、それによって温風がカーラーの内部空間から乾かされる毛髪に送られ、同時に、処理剤による毛髪の処理のため、その内部空間が閉じられるというカーラーとして適当なヘアカーラーを提供することを目的とする。
本発明によって得られる利点は、液体による毛髪の処理及び温風によるそれに続く乾燥のために、毛髪の巻き付け、ほどきの繰り返しが必要ないこと、従って、パーマネントウェーブの形成に時間が掛からないこと、毛髪の完全な処理に１セットのヘアカーラーだけでよいこと、毛髪を乾かすためにヘアカーラーの内部空間からの空気にさらすこと、と略見なすことができる。
以下に、本発明は一実施例のみを図示する図を基にして説明される。
図１は本発明のヘアカーラーの長手方向の断面図である。
図２は図１のヘアカーラーの一部切断側面図である。
図３はヘアカーラーの図２の矢印Ａ方向から見た図である。
ヘアカーラーは一般に、内部空間６を有する空洞体として構成された円筒形部１より成る。円筒形部１は一側でフランジ部２となっており、そこも又内部空間５を有する空洞体として構成される。内部空間５は、通路14を介して内部空間６と連通する。その反対側で円筒形部１は、円板３として構成されたフランジ部となっている。
従って、処理される毛髪は、円筒形部１の空洞体として構成されたフランジ部２と円板３として構成されたフランジ部との間に巻き付けられる。
円筒形部１は外部スリーブ10と内部スリーブ９とより構成される。外部スリーブ10はその円周壁部に、一定の様式で配置され、空気流出口８として作用する多数の孔を有する。
内部スリーブ９も又、その円周壁部に一定の様式で配置され、空気通過口11として作用する多数の孔を有する。図示の例では、空気流出口８の様式は空気通過口11の様式と等しい。しかしながら、特に内部スリーブ９に関して空気通過として他のデザインが考えられ、

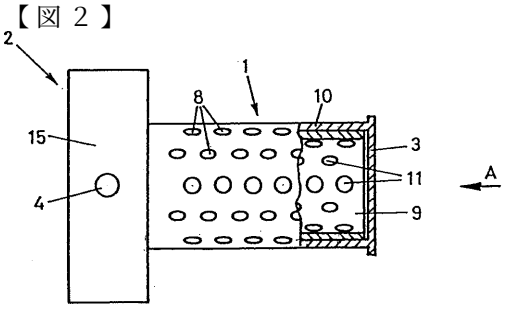
例えば、単一の軸方向に延びる長孔、又は複数の軸方向に延びる長孔が内部スリーブ９の円周壁部に形成される。
内部スリーブ９はフランジ部２と共に回転するように、空洞のフランジ部２の部分12にしっかりと連結される。図示の例では、内部スリーブ９はこの部分12と一体に構成される。
空洞のフランジ部２の内部空間５は、少なくとも１つの通路14を介して内部スリーブ９の内部空間６と連通する。空洞のフランジ部２の部分12は、図１で示すように、軸方向に向かう円周部15に続く半径方向に延びる板状の端部を含む。流入口４がこの円周部15に形成される。この流入口４は、温風の源に連通するホースと連結されるようになっている。温風の源を有する装置は、ホースを介して空洞のヘアカーラーと連結されており、ヘアカーラーに巻き付けられた毛髪を乾かすために、送られた温風はヘアカーラーの内部空間に流入し、そこからヘアカーラーの外周壁部の孔を通って流出することは一般的に知られており、従って、これ以上詳細には説明しない。
空気流出口８を有する外部スリーブ10は、一端が円板状のフランジ部３になっている。
図１において、外部スリーブ10と円板状のフランジ部３は一体構造として設計されているが、それらは共に回転させるために互いにしっかり連結された２つの分離する構造にできる。例えば、外部スリーブ10はアルミニウム製であり、フランジ部３はプラスチック材で作られるということが又可能である。内部スリーブ９と空洞のフランジ部２についても同様である。
外部スリーブ10の円板状のフランジ部３から遠い端部で、外部スリーブ10は円板13と連結しており、円板13もまた外部スリーブ10と一体構造として設計されているが、外部スリーブ10と共に回転するためにしっかり連結された分離部分にでき、その部分もまた異なる材質で形成することが可能である。
この円板13は空洞フランジ部２の一部を形成する。この円板13の周縁に沿って多数の凹部が形成され、凹部は円周部15によって円周に沿って覆われており、空洞フランジ部２の空気流出口７が、スリーブ９、10の軸方向に向かって形成されるようになっている。
内部スリーブ９は外部スリーブ10内に回転できるように支持されており、符号16は単に概略的に設計された軸方向のガイド部を示す。従って、空洞フランジ部２の円板13は空洞フランジ部２の他の部分、即ち、部分12及び15に関連して回転可能である。スリーブ９、10の図示された位置では、外部スリーブ10の空気流出口８は内部スリーブ９の空気通過口11に配列されている。従って、作動中に、流入口４を介して流入する温風は、通路14を通って内部スリーブ９の内部空間６に流入され、外部スリーブ10に巻き付けられた毛髪を乾かすために、半径方向に配列された口８、11を介して流出する。
２つのスリーブ９、10が相対的に回転すると、内部スリーブ９の孔のない円周部が空気流出口８を塞ぎ、空気が内部空間から流出しないようになっている。空気流出口８を開閉するためは、僅か２、３度の角度による相対的回転でよいと言うことが判る。特に接合部を示すことは明確にしていないが、ロック部材が存在し、開閉位置の夫々でスリーブ９、10をロックし、回転運動を夫々限定する。
更に又、空気流出口８が開閉されることとは関係なく、空洞フランジ部２の空気流出口７は不変に開いた状態であり、作動中に、連続して軸方向に向かう温風は、巻き付けられた毛髪の外側の円周上の範囲を乾かし、これらの空気流出口７から出るようになっている。
スリーブ９、10の調整、即ち相対的回転は、全く簡単に都合よく行われる。それは単に一方の手で円板状のフランジ部３を、他方の手で空洞フランジ部２、特にその円周部15をつかみ、少なくとも一方の手の小さい動きによるだけで２つのスリーブ９、10間の相対的回転がなされるのである。
毛髪の処理として、毛髪が夫々のヘアカーラーに巻き付けられる。各ヘアカーラーのスリーブ９、10は、空気流出口８が塞がれるその位置に、初めに回転される（毛髪が巻かれる以前または以後に行われる）。その後、パーマネントウェーブを形成するための毛髪の処理が、一般に知られた行程によって行われる。空洞フランジ部２の空気流出口７から軸方向に出る温風だけで、毛髪の初めの僅かな温めが行われる。毛髪がすすがれた後、スリーブ９、10は互いに回転され、外部スリーブ10の空気流出口８が開かれ、口８を通って内部

から出る温風、及び口７を通って外部に出る温風によって、毛髪が均一に乾かされる。之によって、毛髪の全体の処理が１種類のヘアカーラーによって行われ、毛髪を処理する時間の相当の節約が達成される。

【図１】



【図２】



【図３】

